

市長定例記者会見資料



令和5年4月27日	
所 属	住宅政策課
所属長	田村 昌信
電 話	06-6489-6608

ファミリー世帯が住みたい・住みやすいまちの実現に向けて 外部専門家から成る『住環境アドバイザーボード』を設置

尼崎市は、交通利便性や生活利便性に優れており、また、歴史や人の活力も魅力的で、住宅地としての可能性は高く、近年では、JR尼崎駅の「あまがさき緑遊新都心」やJR塚口駅の「ズットシティ」など、駅前再開発により供給された住宅・住宅地が注目され、人口の社会増が見られています。

一方で、市内全体で見ると床面積が小さい住宅の割合が多く、ファミリー世帯が快適に住むことができる住宅環境は十分ではないことから、子育て世代が市外に転出する傾向が見られるなどの課題もあります。

そうしたことから、尼崎市では、ファミリー世帯の定住・転入に資する良好な住環境の形成に向け、外部専門家から成る「住環境アドバイザーボード」を設置し、住宅の供給主体である開発事業者の考え方や良質な住宅供給を図るうえでの課題やニーズ等を把握し、尼崎市の住環境・住宅供給の目指すべき方向性を見極めて、実効性のある行政手法につなげていきます。



1 住環境アドバイザーボードの進め方の概要

尼崎市という「まち」の住環境を考えるうえでは、そこで暮らし活動するさまざまな人や事業者の意見を把握することはもとより、将来を見据えた計画的な都市運営が求められます。

住環境アドバイザーボードでは、テーマごとに尼崎市の都市計画・住宅政策等に精通し、かつ多角的な視点を持つメンバーにより、尼崎市が目指すべきまちづくりの方向性やその手法について、自由に意見を交わすことで、課題やニーズ等を把握し、職員による施策立案につなげていきます。

令和5年度は、特に短期的に取り組むべき課題等についての検討を進めるとともに、中長期的な視点で解決すべきものについても視野に入れて、令和6年度以降も、課題等に応じた新たなテーマを設定し、検討していきます。

2 メンバー

固定メンバー：4名

テーマ別メンバー：テーマに応じて選定

区分	氏名	役職・職名	備考
固定	岡 絵理子	関西大学 環境都市工学部 建築学科 教授(住環境学)	学識経験者
〃	岡本 壮平	株式会社 地域計画建築研究所(アルパック) 大阪事務所長	有識者
〃	田邊 昭	独立行政法人 都市再生機構 西日本支社 副支社長	有識者
〃	松本 眞	尼崎市長	
テーマ別	(未定)	各種テーマに応じて、メンバー(事業者・団体含む)を加えます	

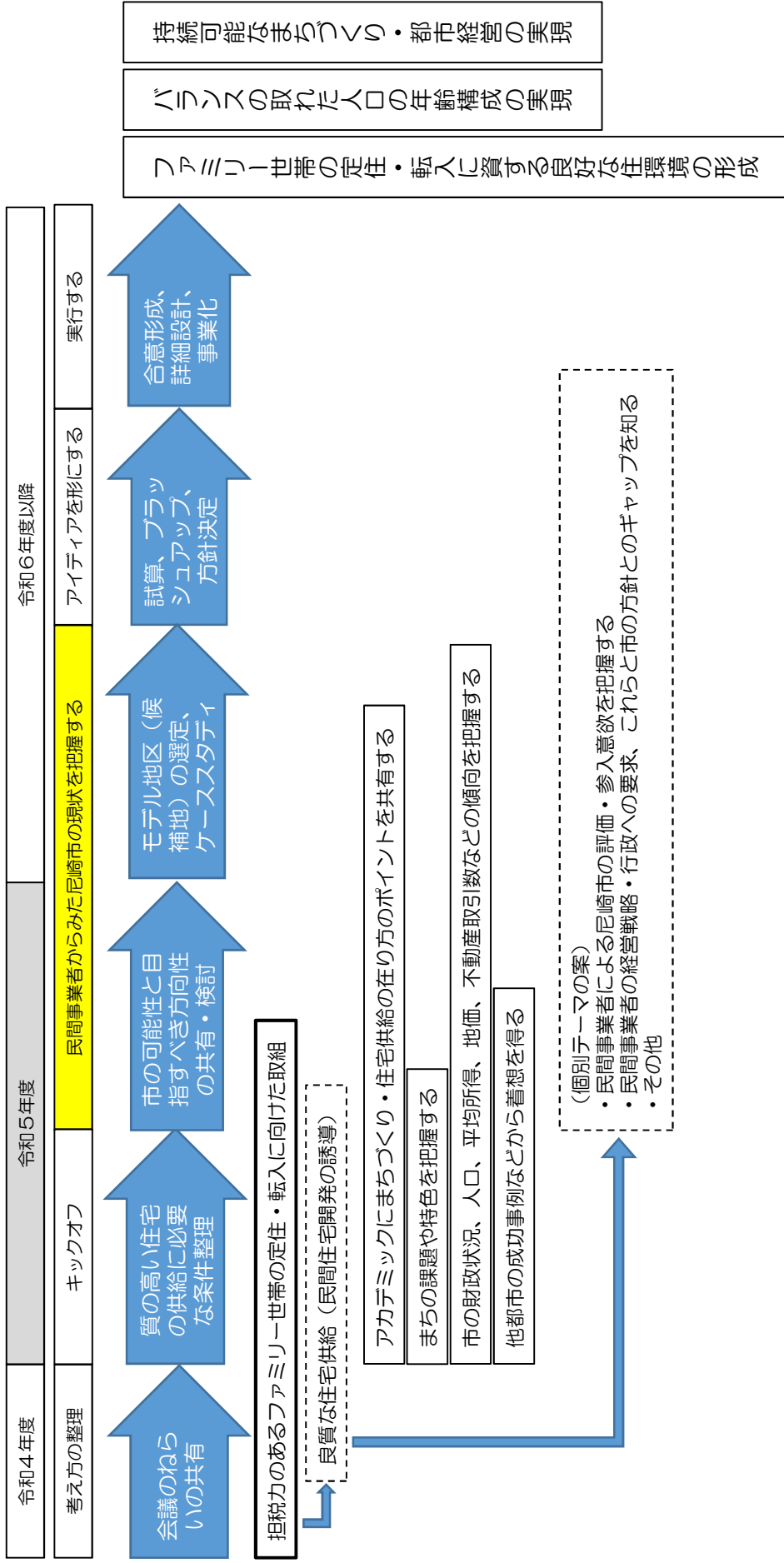
(敬称略/五十音順)

3 開催日時

令和5年5月24日(水) 10時～

以上

令和5年4月27日 市長定例記者会見 住環境アドバイザーボードの進め方、スケジュール感

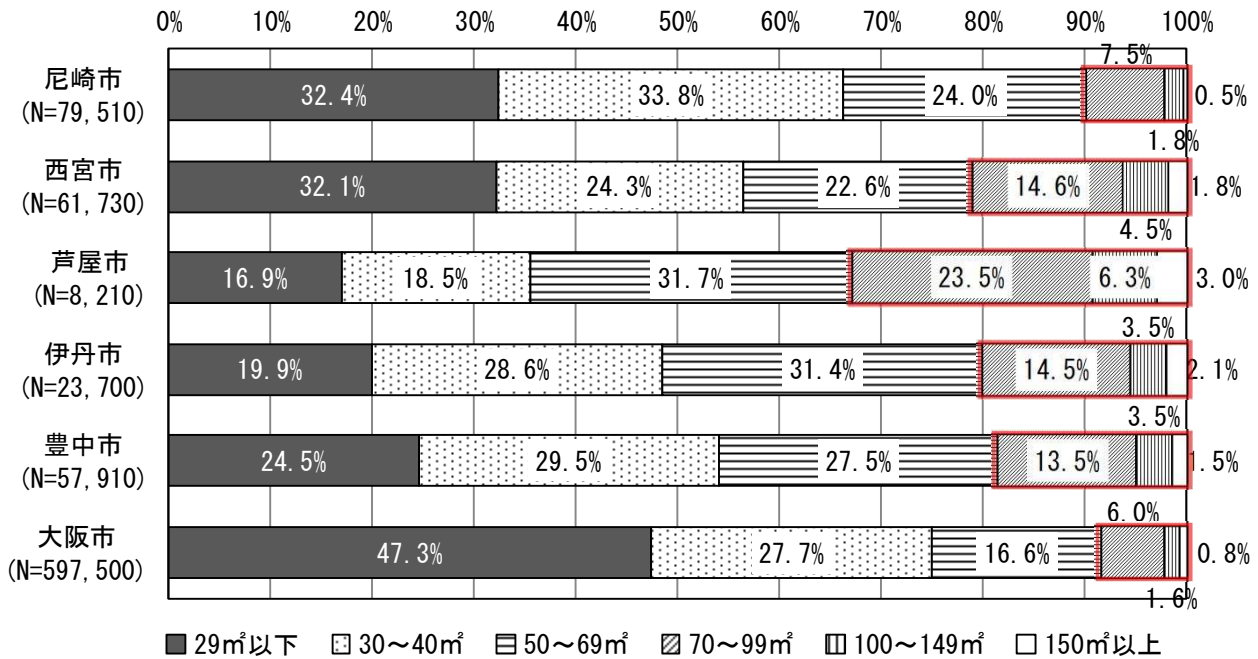


住宅を取り巻く状況（統計データ）

1 延床面積別（民間賃貸住宅）

- ・尼崎市の民間賃貸住宅のストックでは、70㎡以上が1割弱で他都市と比べて割合が低い。また、40㎡以下が7割弱と大半を占め、他都市と比べて割合が高い。

※集計対象は民営借家のうち専用住宅のみ

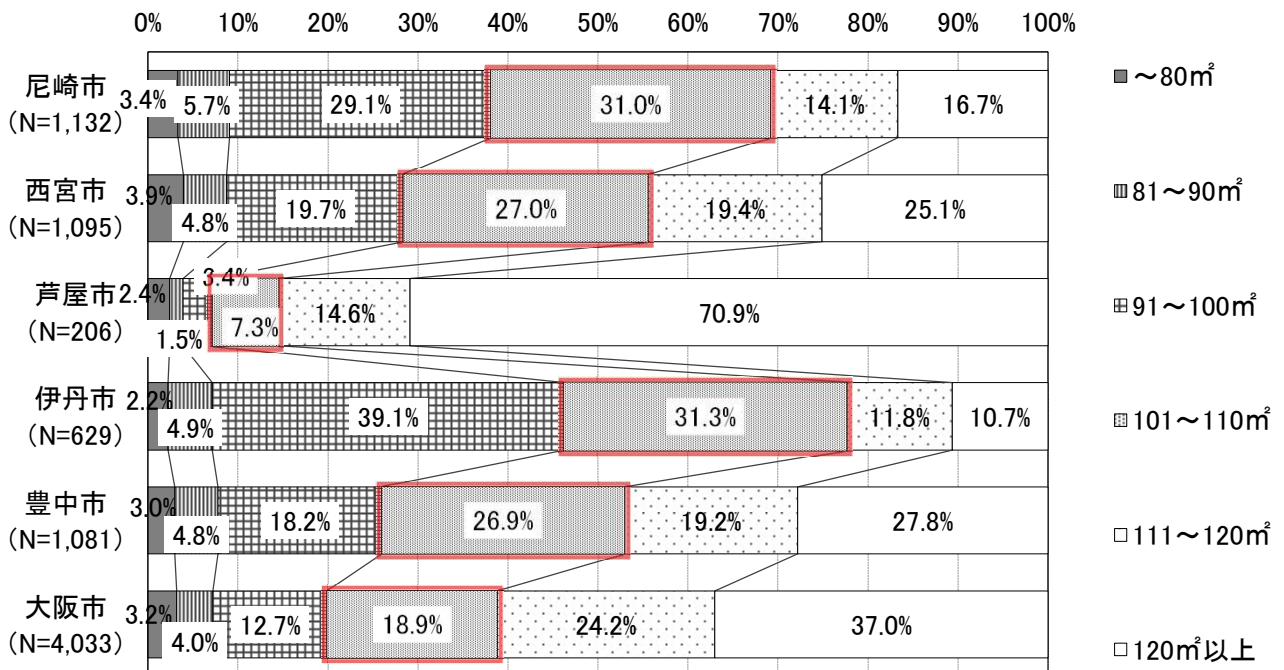


資料：住宅・土地統計調査（H30）

2 新設戸建住宅床面積分布別

- ・尼崎市の戸建住宅のフローでは、101~110㎡が31%と最も多く、101㎡以上が約6割を占めている。

※集計対象は一戸建専用住宅のうち持家及び分譲住宅のみ



資料：新設住宅着工統計（R3）